

歯科材料 0.5 歯科用接着充填材料
管理医療機器 歯科充填用グラスポリアルケノエートセメント（70848002）
（歯科裏層用グラスポリアルケノエートセメント（70850002）、
歯科小窩裂溝封鎖用グラスポリアルケノエート系セメント（70851012）、歯科用知覚過敏抑制材料（70926000）
歯科用シーリング・コーティング材（70860000）*、歯科用多目的グラスポリアルケノエートセメント（70878000）*）

ジーシー ケアダイン レストア

【禁忌・禁止】

亜鉛及びグラスアイオノマーセメントに対して発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある患者には使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

形状

- ・粉末
- ・液

主成分

- ・粉末：フルオロアルミノシリケートガラス、フルオロジシクシリケートガラス
- ・液：ポリアクリル酸、蒸留水、多塩基性カルボン酸

原理

- ・粉末と液の混合によりペースト状となり、フルオロアルミノシリケートガラスおよびフルオロジシクシリケートガラスとアルケノ酸水溶液との反応により硬化する。

特性

項目	粉液比（粉/液）
	2.3 g/1 g
操作時間（23℃）	2 分 10 秒
注水研磨可能時間	6 分
硬化時間*（37℃）	2 分 45 秒

（※ JIS T 6609-1 による）

【使用目的又は効果】

- 1) 口腔内での歯の窩洞・欠損の充填（成形修復）又は修復物の補修等に用いる。*
- 2) 窩洞の裏層材や裏装材として用いる。
- 3) 歯科小窩裂溝の封鎖に用いる。
- 4) 象牙質又は形成象牙質の知覚過敏の抑制に用いる。
- 5) 象牙細管の封鎖又は歯質と修復物、補綴物等との界面の封鎖に用いる。*

【使用方法等】

〔充填修復に用いる場合〕

- 1) 窩洞形成
通法に従い、窩洞形成を行います。
- 2) 歯面の処理
形成後の窩洞を水洗・乾燥した後、必要に応じて、ポリアクリル酸系歯面処理材（例えば、ジーシー キャビティーコンディショナー、ジーシー デンチンコンディショナー）を適用します。適用時間、水洗、乾燥処理は、各製品の添付文書の使用 방법에従います。
- 3) 粉末・液の計量
標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。

4) 粉液の練和

練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は 2 等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。

5) 填入と付形

練和物をインスツルメント等を用いて填入し、形態を整えます。

6) 防湿

感水の恐れがある場合や注水研磨可能時間までに唾液等に触れる恐れがある場合は、付形後に、スポンジ等を用いて歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を、その添付文書の使用方法に従って適用します。

7) 形態修正及び研磨

練和開始から 6 分経過した後、注水下で咬合調整および形態修正を行います。必要に応じて研磨直後に、セメント表面をエアースリンジで乾燥させ、再度歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を適用します。

〔裏層（装）に用いる場合〕

1) 窩洞形成

通法に従い、窩洞形成を行います。

2) 歯面の処理

形成後の窩洞を水洗・乾燥した後、必要に応じて、ポリアクリル酸系歯面処理材（例えば、ジーシー キャビティーコンディショナー、ジーシー デンチンコンディショナー）を適用します。適用時間、水洗、乾燥処理は、各製品の添付文書の使用方法に従います。

3) 粉末・液の計量

標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。

4) 粉液の練和

練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は 2 等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。

5) 裏層（装）

練和したセメントペーストを裏層用充填器等を用い、窩底部に塗布します。

〔小窩裂溝の封鎖に用いる場合〕

1) 歯面清掃

通法に従い、歯面清掃を行った後に水洗・乾燥します。

2) 歯面の処理

必要に応じて、ポリアクリル酸系歯面処理材（例えば、ジーシー キャビティーコンディショナー、ジーシー デンチンコンディショナー）を適用します。適用時間、水洗、乾燥処理は、各製品の添付文書の使用方法に従います。

3) 粉末・液の計量

標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。

- 4) 粉液の練和
練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は2等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。
- 5) 填塞
練和したセメントペーストを、アプリケーターで裂溝に填塞します。この場合、なるべく適量のセメントを持っていくようにします。
- 6) 防湿
感水の恐れがある場合や注水研磨可能時間までに唾液等に触れる恐れがある場合は、付形後に、スポンジ等を用いて歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を適用します。

〔知覚過敏の抑制に用いる場合〕

- 1) 歯面清掃
適用部位に唾液が付着している場合は、可能な限り綿球などで拭き取ります。また、適用部位にプラークが付着している場合は、綿球などでこすり取ります。適用部位の唾液、プラーク除去後、水洗・乾燥します。乾燥時、エアーブローで知覚過敏症状を患者が訴える場合には、綿球により水分除去を行います。
- 2) 粉末・液の計量
標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。
- 3) 粉液の練和
練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は2等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。
- 4) 塗布
練和したセメントペーストを、アプリケーターで適用部位に薄く塗布します。
- 5) 防湿
感水の恐れがある場合や注水研磨可能時間までに唾液等に触れる恐れがある場合は、付形後に、スポンジ等を用いて歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を適用します。
- 6) 再処置
リコール時等に再度塗布を行う場合には、綿球等により表面の清掃を行った後に本材を塗布します。

〔歯面のコーティングに用いる場合〕*

- 1) 歯面の処理
通法に従い、塗布する歯面を清掃し、乾燥します。必要に応じて、ポリアクリル酸系歯面処理材（例えば、ジーシー キャビティーコンディショナー、ジーシー デンチンコンディショナー）を適用します。適用時間、水洗、乾燥処理は、各製品の添付文書の使用法に従います。
- 2) 粉末・液の計量
標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。
- 3) 粉液の練和
練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は2等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。
- 4) 歯面塗布
練和したセメントペーストを歯質に塗布します。
- 5) 防湿
感水の恐れがある場合や注水研磨可能時間までに唾液等に触れる恐れがある場合は、付形後に、スポンジ等を用いて歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を適用します。

〔アクセスホールの封鎖に用いる場合〕*

- 1) 綿球あるいはストッピング材の圧入
必要に応じてアクセスホールに綿球またはストッピング材を圧入します。
- 2) 粉末・液の計量
標準粉液比は、粉末 2.3 g に対し、液 1.0 g です。パウダースプーンすり切り 1 杯の粉末に対して、液 1 滴で、これに相当する比率が得られます。セメントペーストの稠度を硬めや柔らかめに設定したい場合は、粉末の所定量を±10%の範囲で変えることにより、調整することが可能です。
- 3) 粉液の練和
練和紙上に所定量の粉末と液を採取し、プラスチックヘラを用いて練和します。粉末は2等分し、最初の区分に液を加えて混合し、更に残りを加えて合計 30 秒を超えないようにして、均一に練り上げます。
- 4) 填入と付形
練和物をインスツルメント等を用いてアクセスホールに填入し、形態を整えます。
- 5) 防湿
感水の恐れがある場合や注水研磨可能時間までに唾液等に触れる恐れがある場合は、付形後に、スポンジ等を用いて歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を、その添付文書の使用法に従って適用します。
- 6) 形態修正及び研磨
練和開始から6分経過した後に、注水下で咬合調整および形態修正を行います。必要に応じて研磨直後に、セメント表面をエアースリンジで乾燥させ、再度歯科接着・充填材料用表面硬化保護材（ジーシー フジバーニッシュ等）を適用します。

〔使用方法に関連する使用上の注意〕

- 1) 本材は、粉液比の調整可能範囲内（粉/液=2.3 g/1 g±10%）で使用する。〔標準粉液比以外では本材の特性が得られないため〕
- 2) 粉の量が多くなると、流動性が低下し、操作余裕時間が短くなるので注意すること。粉末計量の際は、容器を振るなどして粉末をよくほぐしてから、パウダースプーンですくうようにして計量し、すり切って採取すること。〔正しく計量するため〕
- 3) 操作余裕時間を長くするために、液を冷蔵庫で冷やしてから使用する方法があるが、少し硬化が遅くなるので注水研磨時には注意すること。
- 4) 液の滴下計量は、ノズルを練和紙から離して容器を逆さにし、気泡を抜いてから行うこと。〔正しく計量するため〕
- 5) 液容器のノズルに付着した液は、湿ったガーゼ等で拭き取ること。〔液が付着すると正しく計量できなくなるため〕
- 6) 本材は、常温（15～25℃）での使用を基本とすること。室温が高くなると操作余裕時間は短く、また室温が低いと長くなるので注意すること。〔本材の硬化反応は温度の影響を受けるため〕
- 7) 被着面が唾液で汚染された場合には、再度水洗、乾燥を行うこと。〔唾液などが接着力を低下させるため〕
- 8) エアースリンジ等を使用して歯面及び歯面処理材塗布面の乾燥を行う場合には、事前にオイルミスト等接着阻害物質が噴射されていないことを確認してから使用すること。〔接着阻害物質により接着力が低下するため〕
- 9) 覆髄を必要とする場合は、水酸化カルシウム系又はユーージノール系の覆髄材等で歯髄保護を行うこと。
- 10) セメント練和物、歯面処理材等の塗布に使用したアプリケーター等は、患者間で交差使用しないこと。
- 11) 液容器は、最初の1～2滴は量が少なくなるときがあるので注意すること。
- 12) 粉末と液の容器は、使用後すぐに密栓すること。特に粉末は、湿気に触れないように注意すること。〔吸湿すると硬化しなくなるため〕
- 13) サホライドや知覚過敏抑制材を塗布した歯面への使用では、留意して使用すること。〔歯質と十分な接着力が得られない場合がある〕

【使用上の注意】

- 1) 使用注意（次の患者には慎重に適用すること）
 - ①薬剤、食品、アクセサリ、化学物質等に過敏症の既往歴がある患者には、本材及び類似品に対して過敏症歴がなくても問診を行い、慎重に適用すること。

2) 重要な基本的注意

- ①本材の使用により、発疹などの過敏症状を起こした患者には、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けさせること。
- ②本材に対して発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある術者は、本材を使用しないこと。また、使用により過敏症状を起こしたときは、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けること。
- ③本材の未硬化物は、直接素手で触れないこと。未硬化物に触れる場合は、プラスチック手袋、ゴム手袋等を着用すること。
- ④本材又は練和物が、口腔粘膜、皮膚などに付着しないよう充分注意すること。ラバーダムを使用するなど、口腔粘膜・口唇への接触を防止すること（ラバーダムなどで口腔粘膜・口唇への接触が防止できない部分については、ココアバターなどを塗布することをお勧めします）。口腔粘膜に付着した場合にはすぐに綿球で拭き取り、操作終了後に十分に水洗すること。また皮膚に付着した場合には、すぐに流水で洗浄すること。万一目に入った時は、すぐに多量の流水で洗浄し、眼科医の診断を受けさせること。
- ⑤本材を使用した硬化物の研磨作業等の際には、局所吸塵装置、公的機関が認可した防塵マスク等を使用し、粉塵を吸入しないこと。[粉塵が人体に影響する可能性があるため]
- ⑥他の製品と混用しないこと。[本材の特性が得られないため]
- ⑦本材は、【使用目的又は効果】に記載の用途以外には使用しないこと。
- ⑧本材は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。
- ⑨本材については、試験による MR 安全性評価を実施していない。（自己認証による）**

3) 相互作用(他の医薬品・医療機器等との併用に関すること)

(1) [併用注意] (併用に注意すること)

- ①次亜塩素酸ナトリウム系の歯面処理材は本材の接着を阻害する可能性があるため使用しないこと。
- ②歯面処理材、歯科接着・充填材料用表面硬化保護材等を使用する場合は、各製品の添付文書の使用方法、注意事項等を確認してから使用すること。

【保管方法及び有効期間等】

[保管方法]

- ・直射日光、高温多湿を避けて、室温で保管する。
- ・本材は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理する。

[有効期限]

本材は、包装に記載の使用期限※までに使用する。

※（例 EXP. 2021-10 は
使用期限2021年10月 を示す。）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元 : 株式会社ジーシー
主たる設計元 : 株式会社ジーシー

発売元 : 株式会社ジーシー
住所 : 〒113-0033
東京都文京区本郷3丁目2番14号
電話番号 : (お客様窓口) 0120-416480